

PRO-LIFE

中絶に反対する運動

1999年1月 No.99

胎児を守る運動

中絶は黄金律を破る行為である

キリストの教えによると、私達が隣人に対してどのように接するべきかをはっきりと知ることが出来ます。これらの教えは、実はキリストの掟の最初の二つなのです。つまり、「何よりも神を愛しなさい」「そして「あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい」という教えです。いかに隣人を愛するかについては、主の次の二つのみ言葉が示して下さいます。ひとつは「人々にしてほしいと、あなたがたの望むことを、人々にもそのとおりにせよ」という黄金律であり、もうひとつは「あなたがわれわれのうち最も弱い者に対してすることはすべて、私に対してするものである」ということです。

キリストのこれらのみ言葉は、今日の重大な問題である中絶に私達がいかに取り組むかを導いて下さっています。私達の中絶への対応とは、つまり力の無い小さい子どもとその母親への対応にほかなりません。そこに黄金律を当てはめてみましょう。まず、子どもの立場に立ってみます。(私達は皆かつて母の胎内にいたのです)十分に慈しみ育てられてこの世に生まれ

てきたのですか?胎児は目に見えず、中絶に反対できないというだけで、いと簡単な存在を忘れ去られていきます。けれど、一体この誰が母の胎内で殺されることを望むというのでしょうか。黄金律は母親の立場にも当てはまります。もし、妊娠したことを喜ばず、困っているのであれば、あなたはまず何を必要としますか?当然、助けを必要とします。私達はなんとしても、母親がその子どもを殺すのではなく、育てるように手助けをしていかなければなりません。

主はこう言われます。「あなたがわれわれのうち最も弱き者に対してすることは、私に対してするものである」ですから、胎児とその母親の立場に私達自身を当てはめたように、今度はキリストを当てはめてみます。なぜなら、胎児は間違いなく私達のうちで最も「弱き者」であるからです。胎児には力も、自分を守るものも、発する声もありません。話すことも、投票することすらできないのです。母親もまた、ひとりぼっちで、無理解な周囲に踏みこじられがちです。キリストの教えによってその答えは明快です。

母と子を救えば、それが主に仕えることになるのです。逆に、母と子を拒めば、それは主を拒むことになるということです。

キリストの教えの通りに互いに愛するためには、中絶を一切受け入れず、生命を与える選択へ努力していかなければなりません。

フランク・ベイウオン

命の年

主が私達ひとりひとりに授けてくださったものを祝うためには、まず地上における生の現実を受け入れなければなりません。私達は主に仕え、愚痴をこぼさず重荷を背負い、いつも主が私達の近くにいて私達が悲しんでいる時には救



いの手を差し伸べ、順調にいつて高いところから微笑んでおられる

ことを常に忘れずにいることが私達の使命なのです。中絶反対を唱えることで私達はこの価値ある教訓を学んだのです。一九九七年、今年に祝いと更新の年です。

何よりもまず、神が私達ひとりひとり、そして全ての人間を愛して下さるという事実を祝います。そして、プロ・ライフ運動を通して、神に仕えることが出来ることを感謝致します。また、これまでずっと私達に神のやさしい愛を注いでくれたことを感謝します。そして、私達が苦難に耐え、意欲的であることができ、ずる賢い悪魔の手から守ってもらえるにふさわしい人間にしてくださいるように神様にお願致します。

次に、更新のときが来たのです。もちろん私達は神が創った汚れない子ども達すべてに対する完全な保護をこれからも求めていくつもりです。しかし、家庭や教会や隣近所や地域社会でも、祈りや断食や中絶反対運動の更新の必要性を強調したいのです。

もし、私達が世の中の人達の心をもう一度神の大切な子ども達の置かれている現実に向けさせることができれば、子ども達が神の愛の証であるがゆえに、いかなる場合も社会は子ども達を殺すことをやめ、全ての人間を慈しむことが少しずつできるようになるでしょう。

イエスは様は何と言わねばどうしてか

あなたの前に16才の少女がひとり立っています。彼女はあなたの娘かも、妹かも、隣人かも、友人かもまた知人かもかもしれません。その彼女があなたに、「私、今、妊娠しているの」と伝えたとしましょう。

あなたの中をいろんな感情がかけめぐるでしょう。なぜなら、あなたは二つのことを知ったかたの娘です。それは、この若い女性にはセックスの経験があるということ、そして彼女が妊娠しているということ、そして彼女が怒り、失望し、悲しみ、混乱し、そして傷つくでしょう。たぶん、あなたは、彼女に裏切られたと感じるでしょう。どうして彼女

はそんなことをしたのだろう、彼女は自分以外の人のことを考えなかつたのだからかと思うでしょう。しかし今、これらの感情が渦巻く中で、あなたは何を言いたい、何をするかを決めなければなりません。あなたなら何と言いますか。あなたならどうしますか。

彼女の気持ちを考えてみましょう。彼女は怯え、混乱し、傷つき、そして恥じています。そして、自分が多くの人を失望させたことを知っています。彼女は結婚していません、実際に収入もないのに、彼女の胎内で新しい命がたつた今生まれたのです。たぶんその子の父親は彼女を捨てたでしょう。彼女は混乱してたぶん理性的に考えられなくなっているでしょう。彼女にわかっていることは、彼女の人生がたつた今ひっくり返ってしまったということだけなのです。彼女は事態がこんなに複雑になるとは全くわかっていなかったのです。彼女はあなたの反応を恐れています、ほかに頼るところがないのです。彼女はあなたを信頼し、あなたを必要とし

ているのです。

あなたは彼女に対して何か適切なことをしたいと思うでしょう。この若い女性に、赤ちゃんに生きる価値があることを納得させたいと思うでしょう。また、彼女に結婚する前のセックスは間違っていることを知ってほしいとも思うでしょう。あなたは、「私は、この事態を彼女にとつて楽なものにするにはできない。彼女は教訓を学ぶ必要がある。」と思うでしょう。

さて、次のように自分に問いかけてみてください。「イエス様ならどうなさるでしょうか。」彼女が今犯した罪のことで何とかわれるでしょうか。イエス様は彼女を責めるでしょうか。それとも慈悲と愛の気持ちで彼女に手を差し伸べるでしょうか。もしイエス様が彼女の前に立っていたら、彼女を腕に抱いて、無条件の愛を注ぐと私は思います。イエス様に抱かれることで、彼女に慈悲と愛と許しが伝えられるでしょう。このような反応の仕方をあなたはすべきなのです。「彼女の生き方に失望した」と、彼女に話す時はまたあとでやってくるでしょうが、今、彼女は、あなたが彼女のために一緒にいてくれるということを知る必要があるのです。心からの抱

擁は、最も強固な壁さえも突き崩すことができるのです。あなたが支えてあげることがしつかり伝え、そして神様の愛と慈悲を伝えながら抱き締めることで、彼女の心を開かせ、結婚しないでセックスすることが間違っていると彼女に理解してもらおう手助けがたやすくなるでしょう。あなたは神様が彼女の胎内に与えたこの美しい命に対する責任を彼女が受け入れることができるように手助けする必要があります。

忘れなさい。あなたのすべきことは、彼女を責めるこ

とではなく、彼女に教訓を与えらることなのです。あなたのすべきことは、彼女を愛することなのです。というのは、どんなにあなたが彼女を愛しサポートしても、彼女は結婚までセックスをとっておかなかつた自分の決断の結果に堪えなければならぬのです。独身であっても、結婚していても、どんな母親でも、子どもは神様からの贈り物であり、時として母親を神様に近づける手助けをするのは子ども自身だということが分かるでしょう。子どもは神様の恵みなのです。

「子どもが彼らを導く」

© Christian Life 9-1098324

命を守るあなたを思いやり

18歳の時、妊娠しているとわかった。信じてもらえないかもしれないが、その瞬間、新しい生命が自分の中で育っているのを嬉しいと思った。そしてすぐに恐怖へ変わった。恥ずかしさでいっぱい、両親や恋人、家族や友達に妊娠を告げるのが怖かった。みんなが何て言うだろう。私と赤ちゃんは見捨てられてしま

うんじゃないだろうか。両親はまず家族の対面を持ち

出した。世間に何て言われるかわからないと、私の中絶したいという言葉には耳を貸さず、中絶するように言い渡した。世間体を恐れ気にするあまり、娘と孫である子どもの未来を思う余裕すらない様子だった。両親以外にも、頼りたいと思っていた人たちからも見離され、すっかり自分に自信をなくした私は、神からも見捨てられたに違いな

いと思ってしまった。周囲のプ



レッシュャーや嘘に屈して、結局中絶した。

このような状況におかれた若い女性は孤独におびえ、中絶したことを他人がどう思うか極端に気にしている。周囲の最初の一言や反応が、自分自身と子どもへの評価に即つながると考えるので、私達はできるかぎり思いやりをもってやさしく接するべきである。神が常に言われるように、私達はは罪を否定しながらも罪人を愛する必要がある。何事もタイミングが重要である。例えば、べろべろに酔っ払った人を前にアルコール中毒について説教したところで何の意味もない。本当にその人を助けたいのなら、しらふできちんと話をきいてもらえそうな状況を選ぶべきである。同様に、未婚の女性が妊娠した後で貞節について説いても無駄である。性的に清く生きることを伝えることはもちろん必要だが、時を選ばねばならない。

何より大切なのは、妊娠に悩む若き母親が求めているのは愛だということを理解し、できるかぎりやさしく接することである。自分の身体を愛の形として男性に与えた結果、否定され、愛が信じられなくなっている。そんな彼女たちにあたたい言葉と行動で神の愛と許

しを伝える義務がある。その愛は出会った時に声をかけたり、じつくり話を聞いてあげるといってごく簡単な行為でも表せる。神の無条件の愛が注がれるようにただ祈ろう。怒り、傷つき、混乱している時ほど、自分で自分を愛を与えるのは難しいのだから。妊娠は、どのような経緯であれ神からの賜物だ。子どもの中絶をめぐって母親と争うのはやめよう。それよりも彼女がどんな気持ちで話しているかを察そう。彼女はおびえ、自分自身を責めているかもしれない。彼女の周りをとり囲んでいる巨大な壁は愛をもってしか取り壊せない。彼女を愛し、彼女のために祈り、彼女を支え、励まそう。「まことに私は言う。あなたたちが私の兄弟であるこれらの小さな人々の一人にしたことは、つまり私にしてくれたことである。」(マテオにより福音書 二五：40)とキリストは述べている。

ローリー・ワイドマン



悲しみに暮れる母親への言葉

「でも、私の子どもは本当に死んでしまったのです。しかも私とその加害者なのです。」中絶をした女性がこう嘆きます。私はそんな時、それは罪の意識が絶望感を引き起こしているのだと説明することになっています。

死とは経験であって、現在の状態を表す言葉ではありません。なぜなら、「神は死者の神ではなく生者の神である。神にとつては、すべてが生きている。」(ルカによる福音書二十：38)子どもが中絶手術によつて殺された場合、その子は死を経験しますが、滅ばされたわけではありません。子どもは、私たちみんなと同様に永遠に生きているのです。死によつてその子が滅ぶことはありません。

「でも、私の子どもは本当に死んでしまったのです。しかも私とその加害者なのです。」中絶をした女性がこう嘆きます。私はそんな時、それは罪の意識が絶望感を引き起こしているのだと説明することになっています。

死とは経験であって、現在の状態を表す言葉ではありません。なぜなら、「神は死者の神ではなく生者の神である。神にとつては、すべてが生きている。」(ルカによる福音書二十：38)子どもが中絶手術によつて殺された場合、その子は死を経験しますが、滅ばされたわけではありません。子どもは、私たちみんなと同様に永遠に生きているのです。死によつてその子が滅ぶことはありません。

「でも、私の子どもは本当に死んでしまったのです。しかも私とその加害者なのです。」中絶をした女性がこう嘆きます。私はそんな時、それは罪の意識が絶望感を引き起こしているのだと説明することになっています。

死とは経験であって、現在の状態を表す言葉ではありません。なぜなら、「神は死者の神ではなく生者の神である。神にとつては、すべてが生きている。」(ルカによる福音書二十：38)子どもが中絶手術によつて殺された場合、その子は死を経験しますが、滅ばされたわけではありません。子どもは、私たちみんなと同様に永遠に生きているのです。死によつてその子が滅ぶことはありません。

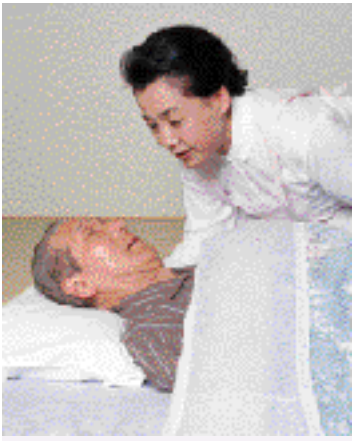


持続的植物状態・やせしむ

ジャッキーは笑う事も泣く事もできず、やさしく触れられてもそれがわからないまま、じつと動かず横になっっている。周りから見れば、死んでいるようである。彼女は元に戻る見込みのない、「持続的植物状態」(PVS)である、とジャッキーの医師は診断した。ジャッキーはただの「植物」なのである。

それでも彼女は呼吸する。眠りもする。スプーンで口に運ばれたスープや流動食も飲み込める。このようにしていれば、ジャッキーは30年生きるかもしれない。決して笑う事なく、決して泣く事もないままで。

彼女は「植物」である。しかし同時に母親でもある。子ども達はジャッキーの事を嘆き悲しんでいる。そばに居ては欲しいけれど、こんな形では辛い。食べ物



と水を与えるのを止めれば、後は自然がなるようにしてくれるとある人は言った。ジャッキー

だつて当然こんな風に生きていくのは思ひやりというものだ。そういつ人達は言つのである。

しかし、あなたは人參に思ひやりを持つた事があるだろうか？植物が苦しむ事はない。だからどうして死が、植物をみじめさから救つ事になるのだろうか？もしジャッキーが苦しみを味わえる程に人間らしかったなら、

それなら彼女は明らかに植物でなく人間で、どの人間も得る権利のある愛、看護、そして尊敬の念をすべて、彼女だつて受ける権利があるはずである。このよ

うな状態でもジャッキーは、神に似せて創られていたのである。彼女の受け身の静けさの中に神々しいものがあるのがわからない程、私達の目は見えなくなつてしまつたのだからうか？彼女の忍耐強さが見えないのだからうか？彼女が神の暗黙の意を、穏やかに受けている事を見えないのだからうか？

か？

食事と水を与えない事で、ジャッキーは他の誰もがそうであるように、死に至る。だが食事を与えないという彼女の当然の権利を奪うことに彼女は感謝する事はないから、彼女にしてみればそれは家族からの彼女への思ひやりではない。良くてそれは彼女のそばで疲れている家族への彼女からの思ひやりである。悪くてそれは金銭的な負担を惜しみ、又看護する家族の負担を共にしたくない、という社会の身勝手である。

このような道徳に関わる困惑に面と向かつた時、私達は常に、「神のご意志はどうだろつ」と自分に聞いてみなければならぬ。神は彼女の魂を鍛えていらつしやるのか、清めていらつしやるのか、天国で暮らす為の準備をしていらつしやるのか？あの見えない目の後ろで、何か人間の想像つくもの以外の事が起きているのだからうか？

それとももしかして神は、ジャッキーの周りの人達の魂を鍛える、という恩恵の道具として、ジャッキーの魂を使つてい

らつしやるのか？神はジャッキーによつて、家族や看護する人や社会から、同情、忍耐、落ち着き、そして愛を引き出そうとしていらつしやるのか？

私達が無視する事によつてジャッキーを死なせてしまつたら、それは彼女への神の意を妨げた事になるのではないだろうか？私達は神の私達への意も、拒否した事になるのではないだろうか？私達は犠牲的愛を実行する機会を拒んでいるのではないだろうか？もしイエス様がジャッキーのそばにいらしたらどうされていただろう？手を差し伸べ、手を取り、起きるように呼びかけられるのではないだろうか？

事実、神の癒しの手を知っている者には、まさにこれがイエス様のなさる事である。84人のPVS患者への最近の医学的調査では、

52%以上が一年以内で回復している。三年後には58%が意識を取り戻している。データを広く再調査した結果、誰が回復して誰がしないか、と予測できる確かな方法を見分ける事はできなかった。つまり、どのPVS患者にも、回復するチャンスはあるのである。

医学調査機関長のキース・アンドリユース博士によると、PVS患者は、リハビリする機会を与えられていない為、治るものも治らないでいる。調査によると、PVSのほとんどの患者は栄養不足である。それによつて奇形になり、回復が更に難しくなつていのである。このような患者へのリハビリ療法は行われていない。必要であるのにほとんどの場合、行われていないのだ」と述べている。

PVS患者を餓死させる事は、神が奇蹟を起こすチャンスがなくす事ではないだろうか？神が受けるべき栄光と感謝を、私達は捧げていないのではないだろうか？

ジャッキーが昏睡状態に入つて六週間目、彼女の家族が医師のアドバイスに従つて、食事も水を与えない許可を裁判所に求めた日から六日目に、ジャッキーは目を覚ました。現在、彼女は全快している。



ある英雄と天使の話

カトリック式葬儀を司る立場にある私は、常に悲劇を見続けてきた。自殺や癌による死は(子どもの場合特に)決して心休まることなく、痛ましい。カトリックの教えに基づき、悲しみにくれる遺族のために、できる限りのことをするのが私の仕事である。金持ちでも貧乏人でも、死産の子どもでも身よりのない老人でも、あらゆる人を慰めるためですんで埋葬を行っている。三年ほど前、幼児の埋葬を無料で行うことに決めた。流産や死産であっても、すべて神の子という考えからである。皆、人間らしい方法で葬られるべきであるのだから。現在、年間約70人の幼児の葬儀を行なっている。

中でも忘れられない葬儀がある。それは、幼児の埋葬をする人がいないと電話があったので、聖書をつかんで墓地へと急いだ日のことである。着くと四人の姿があった。一人は葬儀場から来た運転手、二人はうちのスツッフ、残る一人は小さな墓の上に板を二枚のせ、その上に置いた白く小さな棺を見下ろしてすすり泣いている若い女性。

私は手短かに質問し、彼女のおかれている状況を知った。彼女は19歳、子どもを結婚せずには産んだ、妊娠を知った両親からは絶縁され、子の父親である若者は責任をとる気が全くない。そして、彼は必死で産もうとする彼女から離れて行った。目の前の少女が、ひとりぼっちでうやうや生きてきたのか想像もつかない。どこで仕事をしているのだろうか？ 悲しい時、誰になぐさめてもらうのだろうか？ 中絶しないと決めた彼女を温かく励ます人はいたのだろうか？ 彼女のこれまでの道のりは決して容易ではなかっただろう。それでも彼女は臨月近くまで耐えて出産した。だが、結果は死産に終わってしまった。

しかし、彼女の苦悶はまだ終わらない。車を持っていないためバスで葬儀場まで来ていた。他に誰かを待つべきか尋ねると、「いいえ、誰も来ませんから始めて下さい」と静かな返事が返ってきた。甲いの祈祷が始まる頃には事務所からスツッフがさらに二人駆けつけていた。誰かが喪主である少女の手をとった。私が祈りを始めると、それに合わせて他の皆も厳粛に互いの手をとりあった。平素から死に接している職員達も、彼女が失ったものの大きさを感じて、大いに泣いた。彼女は震える手で、私が差し出した聖水の器に触れ、子どもの棺に最後の恵みをふりかけた。

祈りが終わる頃、見ると、もう一人若い女性がいた。おそらく近くの他の墓地に来ていたのだろう。その女性は我々の側にやって来て、祈りに加わった。私は、喪主の手をとったままで、その女性に「彼女のために一緒に祈り続けましょう」と告げた。スツッフの誰かに喪主を家まで送らせようと言うと、新しく来たその女性が進み出て、喪主の肩に手をかけた。「近くの墓地に幼い息子が眠っているんです」と言いながら、19歳の少女を引き寄せた。そして、「どうかあなたの家まで車で送らせて下さい。あなたの今の気持ちは誰よりわかるから」と言うので、19歳の少女は泣きながら、その女性の肩にもたれかかった。二人は墓地に向かい最後の一礼をし、ゆっくりと駐車場へ向かって行った。

その時そこにいた我々は、真の英雄や天使はごく身近に居ることを知った。両親に見捨てられ「恋人」からも拒絶され、それでも彼女は生を選び、孤独な10ヶ月を歩んできた。「英雄」と言われる人は、ほんの瞬間に決断を下し、その姿が実に勇ましい。この10ヶ月間、生命を尊重してきたその決断は英雄的だった。おそらく誰にも励まされず、侮蔑されるのが多かっただろう。彼女ほど勇敢な人に会ったのは初めてである。あの日、そう彼女に伝えられなかったのが悔やまれる。

しかし19歳の彼女が天涯孤独になる心配はない。神は、彼女の行く先々で側にいる。彼女は神の慈しみをしばしば感じ、神の力が自分にも備わっていると気づくだろう。その証拠を少なくとも一つ挙げる事ができる。

彼女が泣きたい時や助けてほしい時に、肩を貸してくれる天使が送り届けられたのをあの日墓地で確かに見た。

主よ、もっと多くの英雄や天使が現われ、我々も彼らに気づくことができますように。

このビデオ「沈黙の叫び」を見て、1日に5千件もの人工妊娠中絶が行なわれているというとても残酷な事態を知った。中絶をするということは、つまり、神様から授かった一つの生命を殺してしまふという事になるだろう。中絶について、2年生の時に保健で習ったが、羊水の中で浮かんでいる胎児に悪魔の手が伸びてきたとき、必死に逃げ回っているのを実際にビデオで見て、そのとき、胎児は「お母さん、助けて！」と叫んでいるだろうと思うと同時に、とても可愛そうになった。又、母親の方は、中絶をしなければならぬというだけでもかなりつらいだろう。しかしそれだけではなく、中絶をすることで身体はスタスタになり心には深い傷を負い、胎児に対する罪悪感でこれから先ずっと苦しまなければならぬことになるだろう。

男性の方は、すぐに「墮ろせ。」と言うが、簡単に殺されていく胎児のことを言えば、こんなこととは言えるはずがないだろう。男性に対し、胎児の叫びを聞いてほしいと訴えたい。また、一つの生命の尊さを考えてほしいと思う。



『中絶に反対であることを目に見える形で表す』

最近、生命擁護活動に関するニュースとして、一部の過激派の暴力的な行為のことをよく見たり聞いたりします。彼らのように、武器を手に町中に出、暴力的に「胎児を守る」と言っている人達は生命擁護家ではありません。

生命擁護の戦いは退屈で挫折感を感じさせるものかもしれません。私達の住む街で、しかも場合によっては自分の隣の家で胎児達が無残にも殺されている、というぞつとするような事実に私達は直面し続けなくてはなりません。自由と便宜という名のもと、また時には哀れみという名のもとに胎児達は母親の子宮の中で手足をすたすたに引き裂かれています。

このような非道な悪行に対抗する意志を、私達はどのように目に見える形で示せばよいのでしょうか？中絶とは純真な生命を虐殺する事だと人々に悟らせるにはどうすればよいのでしょうか？私達が人々に真実を伝える必要があるのです。

これを実行するために、私に簡単な提案をさせて下さい。公衆の面前に出る時、いつでも目に見える中絶反対の印を身につけるようにしましょう。胎児の人間性を強調するようなものが最も良いでしょう。真実は我々の側にあるのです。

中絶反対のシンボルを身につけることは中絶賛成の人達に立ち向かうための一つの方法なのです。その中絶反対のシンボルの一つ「プレシャス・フィート(尊い足)」についてご存じでしょうか。プレシャス・フィートは妊娠10週目の胎児の足の大きさと形を型どった襟ピンです。このピンを公衆の面前ですれば、あなたと接触を持つ全ての人々に対して、このピンは意思伝達のための力強い味方になるのです。

そして、あなたが伝える意志、それは胎児が真に人間であるという事実なのです！胎児の人間性を示すこの力強い印を身につけていることによって、何人の人達と接触することになるか想像もできません。もしかしたらあなたの付けているプレシャス・フィートが、中絶をしようかと思っている女性の目に留まり、その女性は自分の体内で育っているのは生きた赤ん坊なのだと思つようになるかも知れません。そして中絶を考え直すかも知れません。

もし全ての生命擁護家がいつでもプレシャス・フィートを身につけていたら、この無関心な世界に対してどれだけ重要な証人となるでしょう。もしこの生命擁護活動の国際的シンボルを全ての生命擁護家が身につけ、そしてこのシンボルを守り抜いて行けば、このことがどれだけ素晴らしい団結の証になるかを想像して見て下さい。

誇りを持ってこの強力なサインを身につけている大勢の人達に出会うことで、無関心な人々もその無関心さを脱ぎ捨て、新しい生命の価値観を見いだすかも知れません。ですから、今すぐ私達の事務所に電話を下さい。そして、プレシャス・フィートを注文して下さい(電話番号は0888-73-3619です)。ピンとネックレスの二種類あります。

妊娠中絶と聖書



生命擁護派のキリスト教信者

たちは妊娠中絶が道徳的に間違っていることを常に説いている。だが、彼らはどこでそのような情報を得ているのだろうか。生命擁護派の人に聖書のどこに「妊娠中絶」という言葉が使われているか聞いても、自分自身で聖書を徹底的に探しても、「妊娠中絶」という言葉が直接的に使われている聖書の箇所は一つもないだろう。その代わりに、「子どもの犠牲」や「無実の人の血を流す」といった表現がたくさん使われている。このように聖書には中絶に関してかなり多くのことが書かれている。どこを読めばいいかさえ知っていれば見つけるのは容易である。

一、旧約聖書と妊娠中絶

旧約聖書には子どもの虐殺に対する警告が数多く盛り込まれている：

「神が憎まれる六つのことがある、神のみ心がいとわれる七つのことがある。横柄な目、うそつき、舌、無実の人の血を流す手……」(格言の書 六：16-17)

「無実の人の血を流す」ものの中でもっとも頻りにみられたのが子どもの犠牲だった。子ども犠牲に関する記述は旧約聖書にたくさん書かれていて、レビの書にあるようにモレクと呼ばれる「神」と結びつけて述べられている。

「一人でも自分の子をモレクにささげる者があれば、その者は死の刑に当たる。」(レビの書 二十：二)

モレクという名前は旧約聖書に何回が登場する。その頻度からしてモレク崇拜が古代にかなり普及していたことが推測できる。カナンとアンモナイトの人々は普段自分たちの子どもを「火を通して」モレクに捧げていた。つまり、焼死させていたのである。いけにえの儀式には他に、大きな空洞のある金属製偶像(おそらく雄牛や雌牛の頭部を手にしていて男性の像)の伸びた腕に子どもを置くという形をとるものもあった。

偶像のもとで火がたかれ、金属部分が十分に熱されると腕の部分が自動的に上がり、偶像の口や胸の開いたところに子どもが滑り落ちていく仕組みになっ

ていた。子どもは偶像のおなかの中でゆっくりと焼けこげていったのである。子どもの両親や周囲の人々は、子どもの泣き叫ぶ悲鳴をかき消すために大声で歌って踊りまくるのであった。

キリスト教信者にとって中絶はモレク崇拜の現代版とされる。古代の儀式においては、モレクが家族に豊作や戦いで勝利や富を与えてくれることを信じて子どもをいけにえとして捧げた。現代における中絶の「儀式」は、女性のキャリアや社会的地位、または勝手な個人的欲望をかなえるために子どもが犠牲にされているのである。

神は、モレク崇拜の儀式(またはその延長である中絶)に対する自分の考えを完璧なまでに明白に述べている。

「イスラエルの子らに告げよ、(イスラエルに住む他国人のなか)に、一人でも自分の子をモレクにささげる者があれば、その者は死の刑に当たる。他の民は、彼を石殺しせねばならぬ。私自身も、彼から顔を背け、私の民からその者を断ち切る。彼は、モレクに自分の子をささげることによって、私の聖所を汚し、聖なる名を汚したからである。もし地の民が、モレクに子をささげたその男の行為に目をつぶり、死の刑にすることを怠ったなら、私は、その者とその家族から顔

を背け、彼とともにモレクを慕い、みだらな信仰を行なうすべての者を、私の民から断ち切つてしまふ。」(レビの書 二十：二-五)

中絶を行った者に死の報いというのは今日の規準からいったら厳しすぎるかもしれない。しかし、神が古代イスラエルの人々、そして現代の信者たちに送るメッセージは、妊娠中絶は、神には決して耐えることのできない悪であるということなのである。

二、新約聖書と妊娠中絶

新約聖書も、旧約聖書と同じように間接的にはあるが中絶に反対する表現を含んでいる。マテオによる福音書の第二章には、預言者エレミヤがヘロデの命令によって罪なき子どもたちが虐殺されたことに言及している。

「ラマに声が聞こえた、うめきと激しい悲嘆の音が。子のために泣くラケルの声が。彼女は慰めを受け付けない、子はもういないから。」(マテオによる福音書 二：18)

エレミヤの預言が、幼いイエスをつぶさうと試みたヘロデに当てはまるだけでなく、中絶後遺症候群などにも言えることは明白である。神がいのちを授け、自分の子宮の中で生きていた子どもを殺してしまったことに後

になつて気づく女性ほど哀れなものはないだろう。

イエス・キリストが中絶を非難するのは疑う余地がない。新約聖書では、神が子どもたちに抱く愛情は非常に深いもので、子どもを故意に虐待する者には復讐を仕掛けるとイエスは語っている。(マテオによる福音書・十八：16、マルコによる福音書・九：42) これらの訓戒から、愛する子どもたちに向けられる、かつてなかったほどの虐待である中絶を神が忌み嫌っていたことは容易に推測できることなのである。

三、現代キリスト教徒と妊娠中絶

キリスト教信者は聖書が神の言葉であることに議論の余地はないと確信している。それではないが、今日、多くの信者が中絶に対する神の命令を無視しているのだから。この不服従が何千ものおなかの子どものモレクの手にならざる。キリストもかわらずである。キリストは子どもを愛せよと嘆かれています。一体なぜ「キリスト信者たち」は古代イスラエル人のように信仰を捨て、子どもを犠牲にする非道な習慣をよみがえらせてしまったのだろうか。聖書を注意深く読むと神が忍耐強いこ

日本プロ・ライフ・ムーブメント事務所

「中絶に反対する運動」

〒780-0062 高知市新本町一丁目7-31

電話/Fax 0888-73-3619 e-mail: nvt56n@ps.inforiyoma.or.jp

事務所時間：

月一金 12:00 - 17:00
日のみ 14:00 - 18:00
土曜日 休み

御送金

銀行：四国銀行朝倉支店
口座番号：0573553
日本プロ・ライフ・ムーブメント

郵便局：「郵便振替」
現在口座番号：01660-5-39607
日本プロ・ライフ・ムーブメント

会員募集

寄付：十万円 五万円 三万円
一万円 五千元 一千元

無料：毎月プロ・ライフ・ニュースレター

あなたの寄付はまだ生まれていない赤ちゃんを守る運動のため使用させて頂いております。私たちと一緒に小さい命を大切に育みましょう。

あけまして おめでとうございます

日本プロ・ライフ・ムーブメント

(7ページから)

とがわかるが、しかしその忍耐も永遠には続かないのである。

詩篇一〇六には、モレクに子どもを捧げ続ける国にいずれどのようなことがおこるかのヒントが書かれている。

「その偶像に仕え、それが彼らのわなとなった。彼らは息子をいけにえとし、娘を悪霊にささげ、こつして、幼い息子や娘の罪なき血を、カナンの偶像のいけにえとして流させ、国は血で汚れた。彼らはその行ないでみずから汚し、その行ないで姦通を犯したので、主の怒りは民に向かつて燃え、主はその遺産を憎まれたので、彼らは異邦の民の手に渡され、彼らは憎む者に支配された。」

(詩篇 一〇六 36、41)

「プロ・チョイス」のキリスト教信者たちが、一刻も早く致命的な悪に気づくことを祈るばかりである。

ジャック・マ・ヴォルツ

倫理観に基づく

我々の行動

避妊の問題を取り上げる際、倫理面を完全に除外して考える人が多い。しかし、そういう人に限って、倫理性がどうのと文句を言いたがる。とにかく実用性しか頭にないのである。

性行為は、結婚によって結ばれたふたりのためだけにある神からの贈り物で、感謝し責任をもって受け取るべきである。そこには愛と、人間の生理への

正しい理解という二つの課題が含まれる。我々は肉体と精神から成り立っている。夫婦が避妊を選択するなら、お互いを男性女性としてみなさず、快樂の道具として利用していることになる。その結果、真の愛情も相手への献身も、お互いを受け入れることもできなくなっていく。

結婚により生涯続く結びつきを築こうとする夫婦は、前向きに子どもを世に送り出そうと心掛け、性行為を通じて神の意図を実感できるだろう。愛を通じ生命が育まれる、これこそが神の意図である。花は満開の後に実りを迎え、声高くさえずる鳥は後に巣作りをするように、自然界の命あるものすべては美しい。人間どうしの豊かな愛が損なわれないように守るのが教会の努めである。避妊は生命の倫理にも真実の愛にも反する。神からの創造的愛を排除しようとしている。まるで神に向かって「大丈夫。あなたがいなくても自分の身体をどう動かすかくらい決められる」と言っているようなものである。

避妊が自指すのは、痛みや犠牲や献身などすべて排除されたユートピアである。だが、これだけははっきり言える。現世において、苦しまずに、真の愛や幸福を手にすることはできない。夫婦が本来あるべき形で結婚生活を営まないかぎり、社会は癒されないだろう。子どもを(積極的に)迎え入れ、自分の都合だけを優先しない生き方ができてこそ、生涯幸せな家庭生活が送れる。